

世界水準の「ナショナルパーク」の候補として先行8公園を選定(H28.7)

公園毎に地域協議会によりステップアッププログラムを策定(H28.12)

○プロジェクト全体の中間評価とりまとめ(H30.7)
○国際観光旅客税の本格活用(R1年度～)

訪日外国人の国立公園利用者数
490万人(2015年)
→694万人(2018年)

民間活用によるサービスの向上、受け入れ環境の整備

多様な宿泊サービスの提供

- 分譲型ホテル等を宿舎事業として認可する審査基準を策定(R1.9末から施行)
- 民間事業者と連携しグランピングを実施(阿蘇くじゅう、阿寒摩周、大山隠岐等)



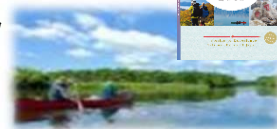
ビジターセンター等公共施設の民間開放

- 大山(大山隠岐)にて、設計から施工・運営まで民間に委ねるキャンプ場の再整備
- 横山展望台(伊勢志摩)に民間カフェを導入(H30.8)
- 川湯(阿寒摩周)のビジターセンターを改修し、情報発信と地域交流の場ともなるカフェスペースを設置(R1.8)



体験型コンテンツの磨き上げ・受け入れ体制の強化

- 国立公園コンテンツ集(日・英)を17公園に拡充。185コンテンツ、44コースを掲載。そのうち60コンテンツのOTA掲載を支援予定。
- 外国人のニーズも踏まえたガイドやコーディネーターを育成する研修プログラムを実施。地域の自走に向けた取組を支援(2017-18に38地域が参加)
- 野生動物観察ツアーの支援事業を開始(R1年度)



景観の改善・利用環境の整備

- 三瓶山(大山隠岐)にて廃屋を撤去(H31.3)、民間事業者がワイナリー等を一体整備。川湯(阿寒摩周)、三陸海岸でも廃屋撤去等を実施予定
- 阿蘇くじゅうにて眺望を阻害していた電線・電柱の移設を実施(H29.11)
- 8公園の案内板、ビジターセンター展示等において、デジタルサイネージも含めた、多言語解説整備を実施中
- 阿蘇火山博物館内に阿蘇山上ビジターセンターを整備(H31.3)。
- 佐多岬(霧島錦江湾)で展望台・休憩所等を再整備(H31.3)



利用者負担による保全の仕組みづくり

- 妙高山(妙高戸隠)で、ライチョウ保全と登山道の維持管理を目的とした協力金の収受を実施(R1.7~10)
- 阿蘇くじゅう国立公園のマップについて、国立公園保護管理活動等への寄付を条件に有料頒布を認める仕組みを整備(R1~)



国内外への強力な情報発信

民間事業者等との連携

- 「国立公園オフィシャルパートナー」が計75社に達する(R1.7)(ANA、JAL、JTB等)。取組例)2019年上期に国立公園をテーマにしたキャンペーンを実施
- 九州地整・環境省・NEXCO西日本・大分県と連携協定締結(R1.6)。



情報サイト・SNS・海外メディア等による発信

- JNTOグローバルサイト内に国立公園の一括情報サイトを設置・公開(H31.2)今年度、アクティビティ等の予約まで一気通貫でできるサイトとする予定。
- Instagram及びフェイスブック公式アカウントにおいて、現地レンジャーから、公園の感動を発信。
- 動画配信や海外メディアへの記事掲載を実施中



国内外の旅行博等での発信

- ツーリズムEXPOジャパンへの出展による情報発信、海外バイヤー商談会でのビジネスマッチングを支援



管理事務所の体制強化

- 伊勢志摩と吉野熊野で国立公園管理事務所を新設(R1年度)
- 民間企業経験者等を「利用企画官」として採用・配置



国立公園満喫プロジェクトに係る地域の周遊性を高める取組

概要

【背景】

国立公園は地方の自然のある地域に位置していることが多く、主要な空港や駅などの拠点から観光地までの二次交通が課題。

【これまでの施策と取組】

国立公園への公共交通機関によるアクセスや拠点間の周遊など、関係省庁・自治体・民間事業者と連携して地域の周遊性を高める取組を推進。

各地域におけるこれまでの取組の例

- ① 青森県八戸駅と十和田湖畔を結ぶ「冬のおいらせ号」をJRバス東北が運行中。（2020年1月16日～2月24日毎日、往復2便）【十和田八幡平】
- ② 鳥取県全域・島根県東部において、外国人向けの二次交通情報の一元化を実施。また訪日外国人向けに2019年12月～2020年3月までの路線バス等が3日間乗り放題になる交通パスを販売＜国交省モデル事業＞。【大山隠岐】
- ③ 2020年1月～3月にオンデマンド交通を含む電車やバス等の乗車券類のほか、旅行商品の「検索・予約・決済」の一本化を図るMaaS アプリ「ぶらりすと」を公開し、サービスを提供＜国交省モデル事業＞。【伊勢志摩】



②3日間乗り放題パス



③MaaSの実証実験

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2019.12)	目標値
二次交通に関する新規取組数 (うち、自立的・継続的な取組数※)	14 (8) (2016~ 2018.3)	24 (13) (2016~ 2018.3)	37 (22) (2016~ 2018.3)	毎年 増加
※補助金等を受けずに運営しているもの				

2020年度の取組予定

引き続き関係省庁・自治体・民間事業者と連携して二次交通を改善。今後、体験型コンテンツと連動させた支援メニューも検討。